

## 第 50 回 セルフケア事例検討会 レポート

1998 年度に福島県立医科大学看護学部が開学し、2000 年度に本学で日本精神保健看護学会学術集会開催を機に始まったセルフケア事例検討会は、今回で 50 回を迎えました。県内外から 58 名が集まり開催することができました。

今回は、セルフケア事例検討会を立ち上げた中山洋子先生から、「方法としての事例検討」というテーマで、精神看護における事例検討についてご講演していただきました。Orem-Underwood のセルフケア理論と Peplau の対人関係論の視点から、精神科看護のあり方について基本的な考え方をお話していただきました。そして、事例検討について、看護実践を通じて“成長”していくための方法、実践行為として看護の“かくされた構造”を明らかにしていくための方法、自己の看護体験を積み重ねていくための方法であるというお話をうかがい、改めて事例検討会の意味を確認することができました。

50 回目となる事例検討会では、山形県立こころの医療センターの佐藤さんと塩田さんから事例を提供していただきました。事例は突発的な暴力行為があり入院が長期化しており、言葉を使っただけの表現が少ないため、看護師がどのように関わっていけばよいのか、地域での生活は難しいのではないだろうかと思われているケースでした。

今回は普段の展開方法とは違って、福島精神看護研究会（本学大学院看護学研究科修士課程生、精神看護学教員など）のメンバーでケースの全体像を描き出し、その後会場全体で介入方法をディスカッションし、中山洋子先生からスーパーバイズをいただきました。様々な視点からケースの検討が行われ、参加の皆さまと充実した時間を過ごすことができました。



講演「方法としての事例検討」  
中山洋子先生



事例検討会の様子